

高市首相「コアラ事件」の解剖

オールドメディアはいかにして捏造記事を生み出し、拡散させたのか

【完全論破】

調査ファイル：2026年5月～6月

対象：NEWSポストセブン・山中武史氏

拡散された「怪文書」の正体

【高市首相「コアラ事件」の内幕】機内でブチ切れ、自衛官を任務外し！

FAKE

「女性自衛官
が質問」

「コアラ
見ました？」

「関西弁・
鬼の形相で
激怒」

「当該自衛官
を任務から
外した」

一次情報による完全否定：内閣広報官の公式見解



内閣広報官室 (@PressSec_JP) / 2026年6月6日



防衛省および高市首相
本人への直接確認済み

記事内容は「事実無根」

事実はテレビや週刊誌ではなく、公式の一次情報にのみ存在する。

180度反転した事実：デマの4大ウソ

項目	週刊誌のデマ	公式事実	捏造度
自衛官の性別	女性	男性	真逆
対象の動物	コアラ	カンガルー	完全別物
首相の反応	<u>鬼の形相・巻き舌</u> で怒鳴る	笑顔で心遣いに 大変感謝	180度反対
その後の処分	任務から外された	現在も専用機チーム で任務継続中	完全捏造

デマの感染ルート：5月28日～6月6日



山中武史氏（元週刊現代編集長）のX投稿
「信頼できる人からの情報」
としてデマを着火

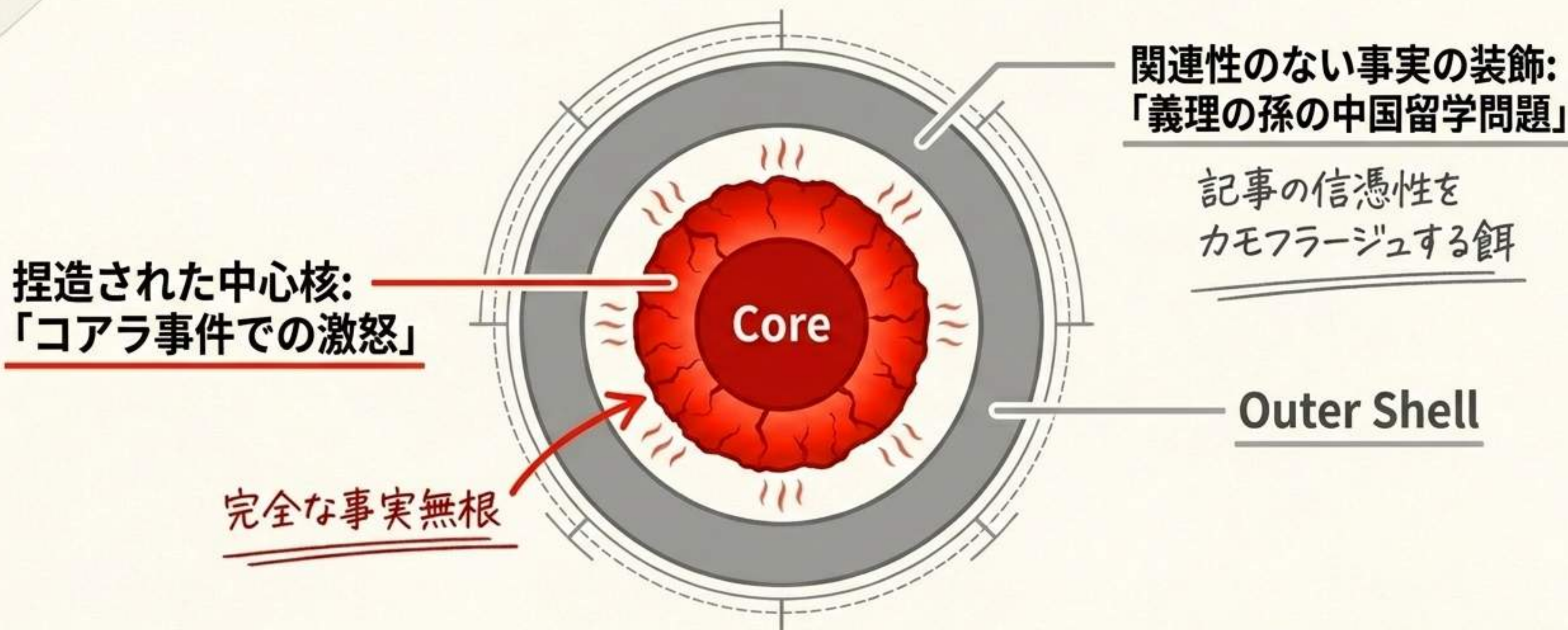
NEWSポストセブン（小学館）が記事化
「一部で噂」「関係者談」と逃げ道を作り、山中ネタを丸パクリ

NEWSポストセブン（小学館）が記事化
「一部で噂」「関係者談」と逃げ道を作り、山中ネタを丸パクリ

内閣広報官による公式否定
デマの拡散を一次情報で強制停止

内閣広報官による公式否定
デマの拡散を一次情報で強制停止

印象操作の設計図：嘘を真実に見せるテクニック



無関係な情報を混ぜ合わせることで、「首相はピリピリしている」という全体的な印象操作を完成させる。

崩壊するメディアの責任：公式否定後の対応

DATE: 2023

FILE: MEDIA RESPONSIBILITY FAIL

STATUS: BROKEN SYSTEM

Evidence

発端者：山中武史氏

責任転嫁

「そんなん戻したらええだけやしな。
僕のネタ元は信頼できる人でした」

拡散者：NEWSポストセブン

訂正コストゼロ

現在も記事を公開中。
訂正・削除・謝罪は一切なし。



ファクトチェックすらサボり「噂です」で逃げるプロ失格の現状。

オールドメディアの定石：「怪文書発表の自由」ループ

1. 又聞き・匿名ソース

→ 幽霊のような
「関係者談」

2. 記事化と炎上

→ 政権叩きによる
PVと利益の獲得

4. 無視・放置

→ 訂正せず、読者に
「悪い印象」だけを残す

3. 公式否定

→ 一次情報による
ファクトチェック

目的は
真実ではなく
「印象操作」

なぜデマは消えないのか？ 「デマの経済合理性」

FACT-CHECKER
DOSSIER

低リスク

高リターン

- ノーコストで記事量産
- 政権批判によるPV獲得・広告収入



- 公式否定されても「噂」で逃げ切れる
- 訂正・謝罪しなくても法的なペナルティがない

嘘をつき通す方が「儲かる」というメディアの構造的欠陥。

結論：私たちが忘れてはいけない事実



【事実確認】

動物：カンガルー

自衛官：任務継続中の男性

首相：心遣いに笑顔で感謝

「コアラかカンガルーか」——
この些細な違いに、メディアの
腐敗が凝縮されている。

次に来るデマから身を守る
武器は、「一次情報の確認」だ
けである。